

〈基本事業〉

1. 事業が目指すところ

NPO 活動を行う団体や個人が事業を実施するにあたって抱える様々な運営に関する悩みや問題を解決するため、中間支援組織であるコムサロン21が持つ多様なノウハウやネットワークを活用して課題を持つ団体等のサポートを行う事業を「播磨 NPO 中間支援センター」と位置づけ、地域の NPO 等の活動を具体的に解決できる拠点として、総合的な運営支援を行う。

2. 活動内容

◎相談

時	法人名	相談内容	担当
6月8日(水)	赤穂市こども食堂	現在の事業の法人化について	前川
6月23日(水)	(株)クズナズン	運営相談。販促のネットワークの構築やイベント支援の相談	前川
7月5日(月)	(株)ETTO	姫路市で国際的なファッション文化を育てるためにファッションショーを実施したい	前川
8月5日(木)	NPO あかりの街姫路	姫路市と協働するあかりの実験実施について	前川
8月7日(土)	NPO あかりの街姫路	姫路市と協働するあかりの科学館との連携について	前川
12月5日(日)	個人	ケアマネージャーから独立してケアマネージャーと介護タクシーの事業を起業したい	李



◎情報提供・ネットワーク

日時	場所	参加団体数	参加人数	内容
5月11日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	助成金、補助金説明会 情報交換会
7月13日(火)	姫路市市民会館	7団体	19名	情報交換会
9月11日(火)	姫路市市民会館	11団体	22名	情報交換会
11月9日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	情報交換会
1月11日(火)	姫路市市民会館	7団体	13名	情報交換会

◎人材育成

大学生インターンの受入れ

受入れ人数3名

日時	実施内容	体験
8月11日(水)	ショートワークで三方よし	セミナー運営
8月16日(月)	ぷちたぷち	ひきこもり支援
8月17日(火)	女性のための起業応援カフェ	セミナー運営
8月22日(日)	亀山御坊楽市楽座	イベント
8月24日(火)	若サポオンラインセミナー 志望動機を書いてみよう	学び

3. 成果や課題点

情報交換会は、2か月に1回定例で開催することにより、参加団体の情報効果や関係は深くなった。姫路市内の出席が定着しているが、周辺市町の団体の参加が少ない。

4. 今後の展望、成果の活用

地域づくり活動の団体は出席いただけるが、福祉関係の NPO 団体の出席が少ないのが課題で、今後の呼びかけの仕方を改善していきたい。また、周辺市町の団体については、距離の問題もあるので、オンライン併用で実施していきたい

〈企画立案事業〉

1. 事業が目指すところ

防災に関する情報収集と情報発信のため県内の防災会議等に参画し、播磨地域の団体に対して情報収集発信を行う。また「第3回ひょうご安全の日のつどい in 姫路(R.4.1.17 開催予定)」を継続開催して市民の防災意識の向上や、関係団体との「平時からの信頼ある相互ネットワーク」の強化を図る。自然災害に加えて、WITH コロナ社会の中での地域活動の支援方法や対策をネットワーク会議等で協議しながら広域化の為の連携を図る。

2. 活動内容

◎防災セミナーの開催

日時	場所	参加団体数	参加人数	内容
5月11日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	助成金、補助金説明会
7月13日(火)	姫路市市民会館	7団体	19名	SDGs
9月11日(火)	姫路市市民会館	11団体	22名	災害時アプリ
11月9日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	70歳就業法
1月11日(火)	姫路市市民会館	7団体	13名	安全の日のつどい in ひめじ準備会議

災害時に役立つアプリが多数リリースされているなか、今回は「NHK ニュース・防災アプリ」と「スマ保災害時ナビ」を紹介。アプリによって、地図データとスマホのカメラが連動され、いち早く避難場所へ避難できる、また翻訳機能でインバウンドや外国人労働者にも対応している。事前にアプリをダウンロードすることで、自らの命を守ることが出来る。自治会や公民館での告知セミナーを開催したいとの感想があった。



・SDGs セミナー

「気候変動の具体的対策」として、気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能、実際に行われている取組についてについて学んだ



◎防災イベント

『ひょうご安全の日 in 姫路 2022』

阪神・淡路大震災を風化させない「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」をテーマに、JR 姫路駅にコンコースに於いて、ポスターセッション・防災情報の発信・防災マップ、防災グッズの展示、PR を行い、一般市民の方へ啓発活動を行った。



3. 成果や課題点

防災については、3回の会議によって、人間関係も深まり、また、1. 17のイベントの実施を通じて、顔の見える関係づくりとなってきた。

4. 今後の展望、成果の活用

1. 17ひょうご安全の日イベントは、その啓発活動は全県に広めていく手段としては、姫路モデルがいいのではないかと思います、行政にも提唱している。
防災対策は一過性のものでなく、常に啓発していくものであるため、できれば、地域全体の事業として広がっていくように次年度も取り組んでいきたい。